分野別研究組織成果報告（2012 年度）

技術交流史の実証研究
－明治初期の英国人鉄道技師の役割を中心に

Technical Diffusion in the Case of Railway Engineering at the Beginning of Meiji

林田 治男（HAYASHIDA Haruo）

技術交流史の事例として、明治初期に来日した英国人鉄道技師の役割を研究対象としている。来日した技師、および技師の募集・選定・指導を行った在英顧問技師の経歴調査を中心に進めていった。

2012 年 7 月 30 日（月）～8 月 23 日（木）Edinburgh, London で調査研究を行った。Edinburgh では、只管 Scotlands People Centre に通いつめた。初代技師長 Edmund Morel が New Zealand 時代（1863 年頃）に交友のあった技師（Thomas Paterson, James Melville Balfour）の経歴を中心に調査に当り、相応の成果があった。

8 月 2 日（木）に London に移動し、National Archives での調査を開始した。まず NA の図書部で *Foreign Office List, Colonial Office List* で Morel が滞在していた Labuan (North Borneo), South Australia の地形、土壌、気候、人口、産業概況、財政、貿易などの資料を複写した。次に関連する外務省文書、植民地省文書を写真に撮っていった。

NA は月曜日も休館なので、日程を有効に活用するためまず King's College, London で当校で学んだ技師たちの学業成績を調べた。London Metropolitan Archives で Morel の「結婚同意書」を閲覧し、Morel と結婚した Harriet Wynder が 1862 年 1 月 31 日には 19 歳で（未成年）、母親の名前は Elizabeth であることを確認した。Institution of Civil Engineers で、South Australia での Morel の後任者だった Robert Charles Patterson の学会入会申請書、SA の鉄道建設に関する学会報告、「追悼記事」を入手した。加えて Philosophical Society of Adelaide での報告を入手できた。（これに対し Morel が日本から感情的に反論した論文であり、同論文は PSA の組織変更に伴い閲覧が困難な資料である。）さらに Cambridge University Library の Manuscripts Room を訪れ（幕末～明治前半期の駐日公使）Parkes Papers を閲覧した。Morel が Labuan 滞在中に総督だった John Pope Hennessy 関連資料を見つけ、また上海－呉淞鉄道敷設が 1865 年に計画されていたことなども判明した。

上述の現地調査を基に、「モレルのラブアンにおける実務経験」（『大阪産業大学経済論集』14 巻 1 号）を上程した。Morel は、来日前の 1865 年 12 月から 3 年弱、北 Borneo の Labuan にいた。政庁のある南の Victoria 港から資材や石炭を運ぶための約 7 マイルの鉄道を建設するために Labuan Coal Company に雇われ赴いた。LCC 社が資金提供できず、また労働者の手配が困難であったため、Morel がいた頃には L 島で鉄道は建設されなかった。しかし、93 年に Arthur.J.West 主導で鉄道が建設されたとき、その路線・建設費がほぼ Morel が測量・積算したときと同じであったので、彼の調査が追認されたことを物語っている。

この論文では、はじめに島の場所、気候、土壌、産物、人口、財政・貿易を紹介した。〔ここまでは NA での調査に基づく。〕また明治政府への Morel の建議（工部省の創設、工部大学校の設立、国産品の使用など）の背景として、Thomas Fitzgerald Callaghan, John Pope Hennessey 両総督との関係が類推されるので、彼らの経歴や人物像（London, Dublin での現地調査による）にも言及した。